

Pグループの作品 森の約束 (1/13)





あるところに、足の悪い男の子がいました。



ある時、男の子はお金持ちの家に食事をもたせようと思っていきました。でも、お金持ちの人はドアをしめて、入れてくれませんでした。



それをみていた森の動物たちは、
男の子の足を見てケラケラと笑
いました。





それから今度は、そまつなキノコの家に住んでいるキッコロの家に行きました。キッコロはこころよくむかえてくれました。

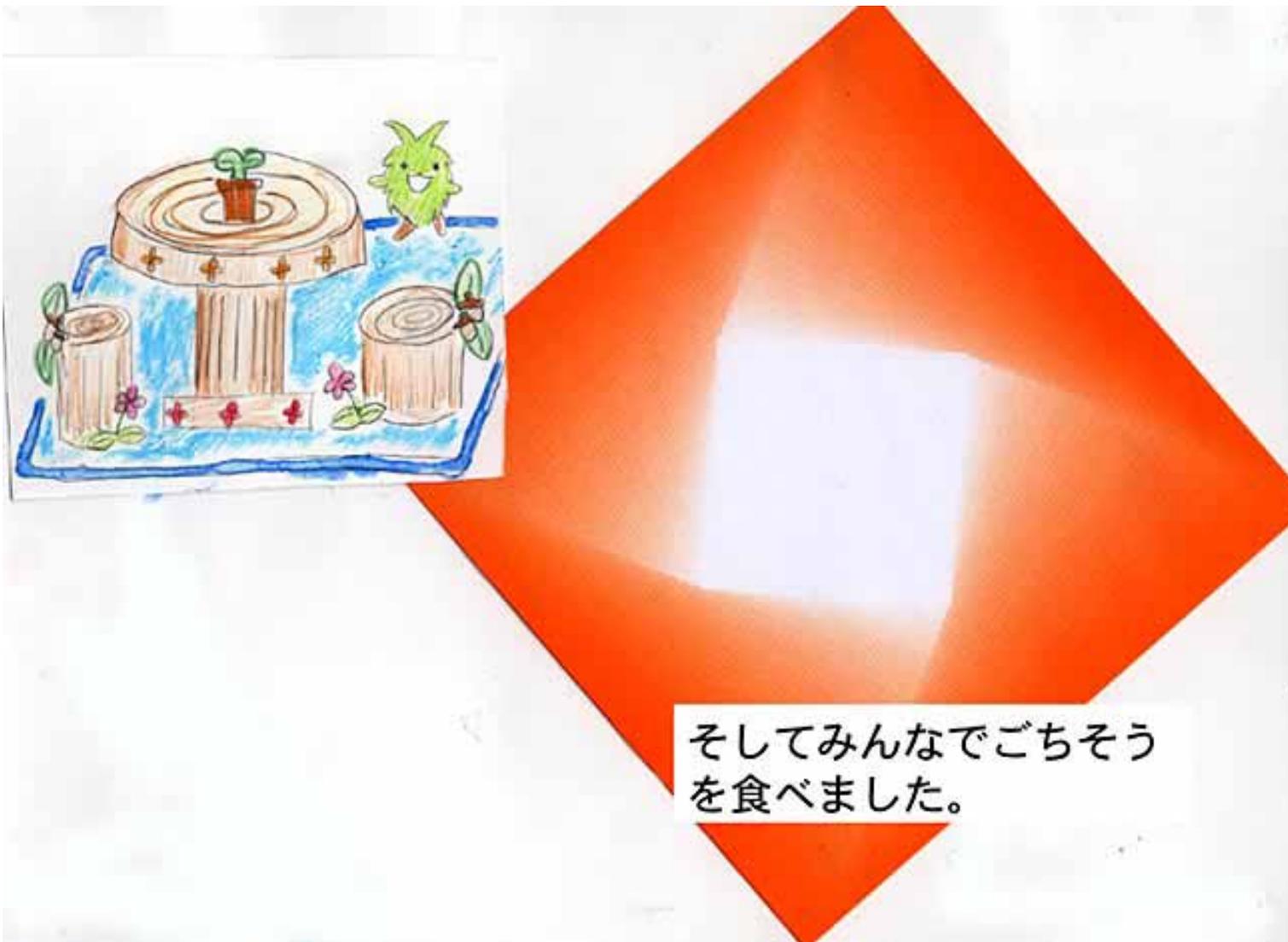
男の子はおなかがペコペコでした。でも、キッコロは料理ができませんでした。



かわりにキッコロはお友達の
モリゾーのところにつれ
ていきました。

モリゾーは親切にごちそう
を作ってくれました。

Pグループの作品 森の約束 (7/13)



そしてみんなでごちそう
を食べました。

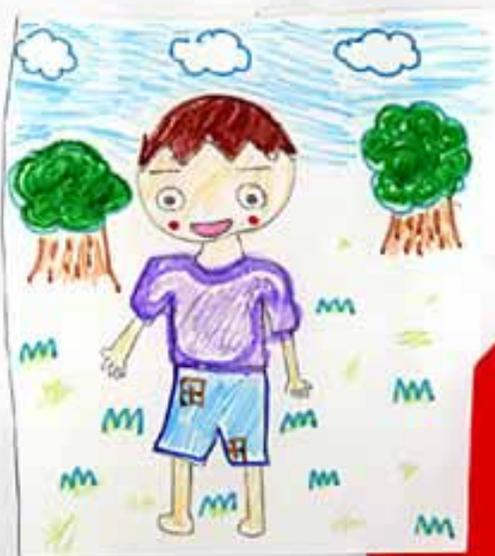
Pグループの作品 森の約束 (8/13)



男の子はたいへんよろこんで、
お礼にモリゾーとキッコロに
「お願いをひとつかなえてあ
げる」と言いました。



でもモリゾーもキッコロも、
自分のことはなにも言わずに、
「男の子の足がよくなるよう
に」という願いをしました。



するとどうでしょう。みるみるうちに、男の子の足がなおっていききました。みんな、声をあげてよろこびました。



こんどは、男の子がモリゾーとキッコロのために「幸せになるように」と願いました。実は、その男の子は美しいようせいだったのです。

Pグループの作品 森の約束 (12/13)



すると、さっき笑っていた動物たちもやってきて、美しいようせいに「さっきはごめんね」と謝りにきました。

